

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	伝統芸能	種目	邦楽
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	無	応募総企画数	
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※			

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要

ふりがな	いっぽんしゃだんほうじんながうたきょうかい		
制作団体名	一般社団法人長唄協会		
代表者職・氏名	会長 吉住小三郎(代表理事 吉住彰規)		団体ウェブサイトURL
			https://www.nagauta.or.jp/
制作団体所在地	〒	160-0023	最寄駅(バス停)
	西新宿駅		
東京都新宿区西新宿6-12-30芸能花伝舎A棟2F			
制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input checked="" type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
ふりがな			
公演団体名			
代表者職・氏名			団体ウェブサイトURL
公演団体所在地	〒		最寄駅(バス停)
制作団体 設立年月	大正14年(1925年)7月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	会長:吉住小三郎、副会長:杵家弥七、日吉小三八、和歌山富朗、常任理事:今藤長十郎、杵屋佐吉ほか3名、理事:杵屋六左衛門、岡安喜三郎ほか9名、監事:喜音家清水ほか2名	当法人は、理事会23名(代表理事1名を含む)を含む協会員1,870名(2025年10月1日現在)にて構成。会員は、各流派の芸名を持つ事を原則とし、各流会派の推薦する演奏家の本会への入会は、定款第6条の会員の資格の取得に基づく。	
事務体制 事務(制作)専任担当者の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	鈴木遊輔
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	吉原 悦子
本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
	yusuzuki@green.ocn.ne.jp		09093668818

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	<p>長唄協会 大正14年(1925年)東京府知事の勧告により設立 昭和52年(1977年)社団法人認可 平成24年(2012年)一般社団法人認可</p>
	学校等における公演実績	<p>長唄協会では、社団法人認可以前より、青少年の健全育成の一環として、小学生にも伝統文化に勤しむ時間を設ける為、昭和43年(1968年)12月より学校巡回公演を主催から後援等で実施。その後中学校、大学も含め、現在、東京都、神奈川県で年間約10校程度実施。また、従来より、学校教員(音楽の先生)向けの長唄実技研修会を全国規模で展開しており、DVD付きのテキスト等を利用しながら、長唄を通して、三味線、囃子楽器等に直に触れ、日本の伝統楽器の特徴を理解しつつ、先生から生徒への円滑な指導に役立っている。その他、伝統文化芸能体験事業として、東京都他の要請を受け、学校や指定会場にて、体験事業を実施している。</p> <p>以下、学校巡回事業実施学校名(平成27年～令和6年)</p> <p>○平成27年 武蔵野市立第四中学校 武蔵野市立第六中学校 国立市邦楽鑑賞教室 フェリス女学院大学 小田原市立片浦小学校 小田原市立三の丸小学校 小田原市立曾我小学校 国立音楽大学附属小学校 豊島区立小学校 邦楽鑑賞教室 新宿区立西戸山中学校 新宿区立西戸山中学校 新宿区立西戸山中学校 新宿区立西戸山中学校 品川区立伊藤学園 品川区立伊藤学園 新宿区立西戸山中学校 文京区立第一中学校 文京区立第一中学校 国立市 邦楽鑑賞教室 世田谷区立駒留中学校 文京区立本郷小学校 中央区立日本橋小学校 文京区立昭和小学校 文京区立誠之小学校 江東区立東川小学校 豊島区立小学校 邦楽鑑賞教室 文京区立第一中学校 文京区立第一中学校 小田原邦楽鑑賞教室 小田原邦楽鑑賞教室 武蔵野市立第六中学校</p> <p>○平成28年 フェリス女学院大学 川崎市立日吉中学校研修会 武蔵野市立第四中学校国立市 邦楽鑑賞教室 中央区立日本橋小学校 文京区立本郷小学校 文京区立誠之小学校 文京区立昭和小学校 武蔵野市立第六中学校 文京区立第一中学校</p> <p>○平成29年 フェリス女学院大学 武蔵野市立第四中学校 江東区立東川小学校 文京区立礪川小学校 中央区立日本橋小学校 文京区立本郷小学校 文京区立誠之小学校 文京区立昭和小学校 国立小学校 邦楽教室 武蔵野市立第六中学校 文京区立第一中学校 文京区立第一中学校</p> <p>○平成30年 フェリス女学院大学 文京区立礪川小学校 国立市小学校邦楽教室 中央区立日本橋小学校 文京区立昭和小学校 文京区立誠之小学校 文京区立本郷小学校 武蔵野市立第四中学校 文京区立第一中学校 文京区立第一中学校 武蔵野市立第六中学校</p> <p>○平成31年 フェリス女学院大学 文京区立礪川小学校 武蔵野市立第四中学校 中央区立日本橋小学校 文京区立昭和小学校 文京区立誠之小学校 文京区立本郷小学校 国立市小学校邦楽教室 文京区立第一中学校 文京区立第一中学校 武蔵野市立第六中学校</p> <p>○令和1年 フェリス女学院大学 文京区立礪川小学校 武蔵野市立第四中学校 中央区立日本橋小学校 文京区立昭和小学校 文京区立誠之小学校 文京区立本郷小学校 国立市小学校邦楽教室 後援 文京区立第一中学校 文京区立第一中学校 武蔵野市立第六中学校</p> <p>○令和2年 フェリス女学院大学 文京区立昭和小学校 国立市小学校邦楽教室 文京区立礪川小学校 文京区立本郷小学校 中央区立日本橋小学校</p> <p>○令和3年 文京区立誠之小学校 中央区立日本橋小学校 文京区立礪川小学校 文京区立本郷小学校 文京区立昭和小学校 国立市邦楽鑑賞教室</p> <p>○令和4年 文京区立誠之小学校 中央区立日本橋小学校 文京区立礪川小学校 文京区立本郷小学校 文京区立昭和小学校 国立市邦楽鑑賞教室</p> <p>○令和5年 中央区立日本橋小学校 文京区立礪川小学校 文京区立誠之小学校(10月実施)文京区立本郷小学校(12月実施) 文京区立昭和小学校(12月実施) 国立市邦楽鑑賞教室(12月実施)</p> <p>○令和6年 中央区立日本橋小学校 文京区立礪川小学校 (10月実施)文京区立誠之小学校(12月実施)文京区立本郷小学校(12月実施) 文京区立昭和小学校(12月実施) 国立市邦楽鑑賞教室(11月実施)</p> <p>○令和7年 中央区立日本橋小学校 文京区立礪川小学校(10月実施) 文京区立誠之小学校(12月実施) 文京区立本郷小学校(12月実施) 文京区立昭和小学校(12月実施) 国立市邦楽鑑賞教室(11月実施)</p>

特別支援学校等における公演実績	文京区立第一中学校(特別養護学級)ほか
-----------------	---------------------

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	https://www.youtube.com/watch?v=crNTV7gmE-Q	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	
		PW:	

別添	なし
----	----

【公演団体名 一般社団法人長唄協会 】

本 公 演 ・ ワ ー ク シ ョ ッ プ	対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
		小学生(高学年)	○	中学生	○
	企画名	はじめての長唄「京鹿子娘道成寺」「鏡獅子」			
	企画のねらい	大半の児童、生徒たちが長唄にはじめて触れることを想定し、楽しく分かりやすい演目を選びました。 前半の長唄「京鹿子娘道成寺」はワークショップでお稽古、発表した内容を膨らませ、本公演ではプロの多人数編成の演奏を聴くことができます。また、お揃いの肩衣をつけた児童、生徒がプロと並んで演奏に参加する機会を設け、視覚からも児童、生徒からの興味を引き出します。 曲中に全員参加の部分設けることで、より一層の一体感が生まれ、充実した体験となるのがねらいです。後半は邦楽の様々な楽器をスライドや実演を通して説明し、長唄「鏡獅子」を聴いてもらいます。楽器や唄を体験したあとでプロの演奏を聴くことで、より印象深く鑑賞できます。そして最後に和楽器の伴奏で校歌斉唱を行い、和楽器の多様性を感じてもらいます。			
	演目概要・演目選択理由	<p>第一部</p> <p>1. はじまりのお話 2. ごあいさつ おさらい 3. 長唄「京鹿子娘道成寺」説明 4. 「京鹿子娘道成寺」おさらい 5. みんなで共演！参加型 長唄「京鹿子娘道成寺」</p> <p>ワークショップでお稽古した長唄「京鹿子娘道成寺」をプロと再共演。長唄をより深く体感します。選抜者は肩衣を着用して舞台上で実演します。</p> <p>休憩 楽器展示コーナー</p> <p>第二部</p> <p>1. 楽器紹介 2. 鑑賞 長唄「鏡獅子」 3. アフタートーク 4. 校歌斉唱 和楽器による伴奏で</p> <p>長唄「京鹿子娘道成寺」 場面ごとの変化に富んだ大曲ですが、その中でも親しみやすく、弾きやすい箇所を抜粋しています。 ワークショップのみではなく、本公演でも形を変えて同曲に触れることで、より深く身体に浸透させることができます。 長唄は「全く知らない難しい曲」ではなく、プロを交え、皆で演奏をし、楽しい身近な音楽であると感じてもらうことがねらいです。 また、第一部では演奏者、第二部では鑑賞者となることで、広い視点で舞台を鑑賞する能力を培います。</p> <p>長唄「鏡獅子」 プロの高度な演奏技術を堪能することができる、大変ドラマチックな曲です。「鏡獅子」の説明をスライドを使用して行います。全曲通すと40分を超える大曲ですが、今回は15分間のハイライトを演奏します。特に後半はテンポアップし、一丸となってクライマックスへ向かって全身全霊で演奏をします。そのスピード感と一糸乱れぬ演奏に圧倒されることでしょう。</p>			
児童・生徒の参加または体験の形態	<p>④ 全校児童・生徒 ⑤ WS参加者の中から選抜された児童・生徒</p> <p>① みんなで唄おう ～謡ガカリ～ ④ 長唄「京鹿子娘道成寺」より、冒頭部分 〴〵花の外には松ばかり～を大合唱、曲のはじまりを全員で壮大に彩ります。</p> <p>② みんなで手拍子 ～お囃子のリズム～ ④ 長唄「京鹿子娘道成寺」より、お囃子のリズムに手拍子で参加、プロの演奏に合わせてリズムカルに叩きます。</p> <p>③ 共演長唄「京鹿子娘道成寺」 ⑤ 選抜された児童・生徒は、肩衣をつけプロと並んで演奏します。 (ワークショップ時にお稽古したパートから選抜)</p> <p>④ 和楽器伴奏による校歌斉唱 ④</p>				

児童・生徒の 参加可能人数	本公演			参加・体験人数目安	全員参加 体育館に入れる人数		
				鑑賞人数目安	600人		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	◎はじめての長唄「京鹿子娘道成寺」「鏡獅子」 ”着到（開幕前に笛・太鼓・大太鼓で演奏する賑やかな囃子）”で児童、生徒のみなさんをお出迎え（入場の音楽） ～第一部 みんなで共演！参加型 長唄「京鹿子娘道成寺」プロと一緒に全員で演奏しよう～ 曲目 長唄「京鹿子娘道成寺」作曲：初世杵屋弥三郎 より一部抜粋編曲（長唄協会） ①ご挨拶 ②みんなで唄おう ～謡ガガリ～ ③みんなで手拍子 ～お囃子のリズム～ ④共演 長唄「京鹿子娘道成寺」 ～第二部 じっくり鑑賞 長唄「鏡獅子」 プロの熱演を心ゆくまで堪能してください～ 曲目 長唄「鏡獅子」作曲：三世杵屋正次郎 作詞：福地桜痴 より一部抜粋編曲（長唄協会） ⑤楽器説明 ⑥全部の楽器と唄で聴く「花見踊」 ⑦じっくり鑑賞 長唄「鏡獅子」 ⑧和楽器伴奏による校歌斉唱 プログラム構成、演出、一般社団法人 長唄協会						
	公演時間	90	分				
出演者	出演者 長唄協会所属、普及育成委員会委員を中心に国内外の演奏会で活躍し、歌舞伎の舞台や国立劇場の舞台にも頻繁に立つ一流の演奏家を選抜 総勢13名（長唄4名、三味線4名、囃子5名編成）ほか、後見、楽器説明など補助出演者3名以内 普及育成委員会委員 東音岩田喜美子（委員長）、杵屋五三丸（副委員長）、望月庸子、望月太津之、藤舎呂裕、今藤政音、芳村伊十治郎、杵屋栄日陽、東音守屋沙弥香、鳳聲晴代、杵屋五三吉都、望月美沙輔、他長唄協会会員						
演目の芸術上の中核となる者（メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等）の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度／名	監修 東音 岩田喜美子（とうおん いわたきみこ）1949年、東京都出身。1954年、初舞台。東音田島佳子に師事。東京芸術大学邦楽科卒業。長唄東音会同人。長唄協会普及育成委員会委員長。重要無形文化財保持者（総合認定）。伝統長唄保存会理事。 メインキャスト 望月 太津之（もちづき たつゆき）1967年、東京都出身。1978年、初舞台。望月太津三郎に師事。1990年、東京芸術大学邦楽科卒業。同年、望月流家元より望月太津之の名を許される。長唄協会普及育成委員会委員。 芳村 伊十治郎（よしむら いそじろう）1976年、東京都出身。杵屋栄富、芳村伊十七に師事。長唄芳友会会員。長唄堀留会・長唄むつみ會同人。長唄治葉会主宰。長唄協会普及育成委員会、長唄と教育をデザインする委員会委員。						
本公演 従事予定者数 （1公演あたり） ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	出演者：	15	名	運搬	積載量：	2	t
	スタッフ：	6	名		車 長：	6.3	m
	合 計：	21	名		台 数：	2	台

本公演・ワークショップの内容	本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュール)の目安	前日仕込		無	前日仕込所要時間			時間程度
		到着	仕込		上演	内休憩	撤去	退出
		8:30	8:30～12:00		13:00～14:30	10分	14:30～17:00	17時00分
		※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。						
	本公演 実施可能日数 目安 <small>※実施可能時期については、採択決定後に再度確認します(大幅な変更は認められません)。</small>	6月		7月		8月		9月
		10日		10日		0日		10日
		10月		11月		12月		1月
		21日		18日		15日		15日
		※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計		99日
	公演に係るビジュアルイメージ (舞台の規模や演出がわかる写真)							
								
								
著作権、上演権等の許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続の要否			該当なし	該当コンテンツ名			
	該当事項がある場合	権利者名			許諾確認状況			

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名

一般社団法人長唄協会

】

ワークショップの
ねらい

◎全員体験が可能

我々が提案するワークショップは学校の児童・生徒全員が参加することが可能です。
三味線、小鼓、篠笛・能管は実際の楽器を使用しますが、これらの楽器はとくに演奏技術が必要なため、講師が指導対応できる最大数を用意しました。今年度から低学年でも比較的取り組みやすい、締太鼓を増やしました。小学校低学年では絞太鼓以外の扱いが難しいため、唄パートを用意しています。楽器を選択しなかった児童・生徒全員で長唄の発声を学びます。

◎実際に楽器に触れてみる

和楽器は、他の楽器に比べて目にする機会が少なく、持つことさえも困難な楽器です。そのような楽器ですが、専門家の指導のもと、正しい構え方・音の出し方を短時間で習得することができます。児童・生徒の興味をより引き出せるよう講師一同力を尽くします。

※楽器体験ができなかった児童・生徒は本公演の際の楽器展示で実際に楽器を見ることができます。

◎稽古の成果を合奏で発表

長唄は通常指揮者を置かず、横一列に並び、掛け声やお互いの息を汲みながら演奏します。今回は体育館の中心を向き、唄、三味線、小鼓、笛の4グループが輪になることで演奏しているお互いの様子を目で見ながら演奏することができ、その場にいながら鑑賞、応援することができます。

◎長唄とは？

長唄の歴史や背景などを端的に説明します。演奏家が普段どのような心構えで演奏しているか、プロならではのエピソードなどもお話に交えることで、児童・生徒の演奏家に対する興味を引き出します。

児童・生徒の
参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

200名程度

ワーク
ショッ
プの
内
容ワークショップ
実施形態及び内容

みんなで和(輪！)楽器体験～輪になって長唄「京鹿子娘道成寺」～

曲目：長唄「京鹿子娘道成寺」作曲初世杵屋弥三郎
より一部抜粋編曲(長唄協会)

【前半・グループ別稽古】

唄、三味線、小鼓、締太鼓、笛に分かれ、それぞれの部屋で45分間の稽古。
※三味線は移動が難しい楽器のため、後半の発表会を行う体育館、講堂などを使用し稽古を行う。

長唄「京鹿子娘道成寺」より①謡ガカリ ②マリ ③梅とさんさん ④サラシ

◎唄(楽器を選択しなかった児童・生徒)

京鹿子娘道成寺より、①謡ガカリ と ②梅とさんさん

◎三味線20名(小学4年生以上)

京鹿子娘道成寺より、②マリ と ④サラシ

◎小鼓10名(小学3年生以上)

京鹿子娘道成寺より ②マリ と ④サラシ

◎締太鼓2名(小学1年生以上)

京鹿子娘道成寺より ③梅とさんさん ④サラシ

◎笛(篠笛・能管)15名(小学4年生以上)

京鹿子娘道成寺より ③梅とさんさん ④サラシ

【後半・全体稽古】

全員で集まり合奏練習を行い、その後成果発表を行う。

最後に長唄の説明、本公演でプロと共演する内容の発表と宿題の提示。

その他ワークショップに
関する特記事項等

※三味線20名(3年生～6年生、中学生)、小鼓10名(3年生～6年生、中学生)、締太鼓2名(1年生～6年生、中学生)、篠笛と能管15名(4年生～6年生、中学生)、唄(人数、学年の制限なし)

※三味線は体育館、唄、小鼓、締太鼓、笛もそれぞれお部屋のご準備をお願いします

※後半は体育館で正座をするため座布団やそれに代替えするもののご準備をお願いします(例、防災頭巾、バスタオル、体操用マットなど)

※ハンディマイクを1本お借りします

別添	なし
----	----

【公演団体名 一般社団法人長唄協会 】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。

- ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
- ・搬入車両が構内に入れず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
- ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。

上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。

任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。

詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。

なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件	(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。					
	会場の設置階の制限	条件なし		主幹引き込み電源容量		30 A以上	
	舞台設置面積	間口	10 m	奥行	5 m		
		高さ	指定なし	m			
	舞台設置場所	フロア対応	可		学校のステージでの対応	可	
	搬入間口の広さ	幅	1.3 m	高さ	2 m		
	遮光の要否	5割程度必要		緞帳の要否		有無のみ確認したい	
	ピアノの使用について	使用しない	ピアノを使用する場合の設置位置の指定				
			ピアノを使用しない場合の移動の要否				
	搬入車両(トラック等)の横づけ	応相談		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離		30 m以内	
	搬入車両の種類	中型トラック		台数	1 台		
	搬入車両の大きさ	車幅	3 m	車長	6.3 m		
備考							

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報	(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
	会場図面の提出要否	不要	
	その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)		

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ					
ワークショップ						
本公演	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒	15分	公演開始前	本公演に参加する児童、生徒さんと本番通りの練習を行う	公演開始前の休み時間等でのよいので、リハーサルを希望します。	
本公演						

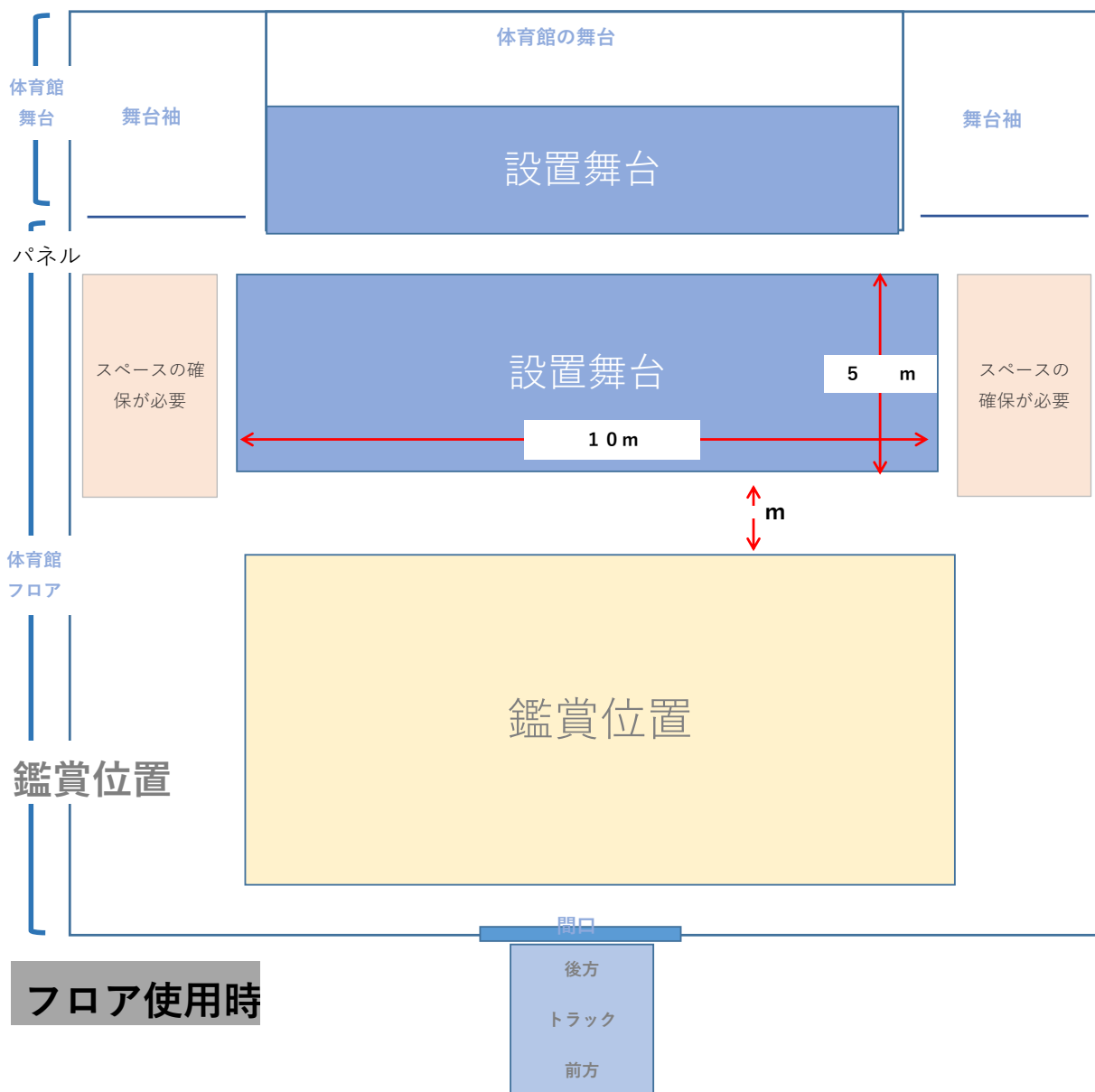
個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1	ワークショップの際にハンディマイク1本をお借りしたいです。	
	2	体育館で正座をするため、防災頭巾、バスタオル、マット等足が痛くなりにくいものの御用意をお願いいたします。	
	3	スライド投影のためのプロジェクター、スクリーン(自立式)をお借りします。無い場合には持参します。	

(任意)

会場条件について最低限必由条件がある場合、簡易図面を記載してください。

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。

会場簡易図面



別添

なし

【公演団体名

一般社団法人長唄協会

】

本事業への応募理由等

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

【本事業を通じて実現したいこと】

長唄協会は、大正14年(1925)に設立して以来、演奏会活動を中心に様々な事業に従事してきました。その中で、小中学生に生の邦楽を聞かせたいという思いから昭和43年(1968)より学校巡回演奏を始め、翌年昭和44年(1969)には受け皿としての団体「集団・日本の音」も設立されました。

以来、現在までの約60年間で、訪れた学校は延べ約1700校、参加した演奏家は約2万3000人余りという規模の運動に発展しました。

平成14年(2002)の学習指導要領改定により、和楽器、民族楽器の義務化が為され、当協会はこの改定に対応すべく、平成11年(1999)、邦楽教育対策委員会を立ち上げ、平成13年(2001)には社団法人認可以来積極的に推進してきた学校巡回演奏委員会と合体させ、学校教育邦楽普及育成委員会(学邦委)を設置しました。

この学邦委は今日の普及育成委員会の前身となるものであり、学校巡回演奏公演を中心に、様々な事業を行ってきました。

平成20年(2008)、東京からの文化の創造発信を強化する取り組みとして、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体やアートNPO等と協力して「東京文化発信プロジェクト」を開始、芸術文化を通じた子供たちの育成を図る「キッズ事業」の展開が開始されました。

長唄協会ではこの趣旨に賛同し、平成21年(2009)度より20余名の会員により「キッズ伝統文化・芸能体験プロジェクト」を組み参画し現在に至っています。

以上のように長唄協会として約60年間、学校巡回に力を入れ活動してきました。さらに発展させるべく諸先輩方の尽力の歴史を継承し、将来にわたり長唄のファンを作り続けるということは今後も重要と位置付けています。伝統楽器に触れ、プロと一緒に発表会をした、という経験を一人でも多くの児童・生徒に届けることは、長唄協会の使命の一つです。

本事業では令和5年度に8校実施。令和6年度には2校実施、令和7年度は5校実施予定ですが、行く先々で長唄に触れたことのない児童・生徒が大変興味深く、楽しんで体験や鑑賞をしてくれました。この貴重な体験機会を少しでも多くの児童、生徒に届けることで、長唄をはじめ日本の伝統芸能に対する関心を広げていきたいと考えています。

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

・長唄協会理事会において内容を監修し、事前に出演者によるリハーサルを行います。

【ワークショップ】

・ワークショップにおいては多くの事業にて指導経験の実績がある者が指導にあたり、演奏に関しては、熟練した演奏家による演奏を体感いただきます。

・体育館を4ブースに分け内側を向くという配置にすることで、移動の煩雑さを回避できます。また「出演者」であると同時に「観客」にもなり、それも体験と位置付けることが可能です。

【本公演】

・「休憩時間に楽器展示コーナーを設ける」「スライド等で状況補足をする」「簡易な衣装をつける」等の工夫により、聴覚はもとより視覚、触覚からも体感することができます。

全体を通じて適宜質疑応答を設けることにより、児童・生徒からの質問や関心事に対して補足が可能となります。

事業を適切かつ
円滑に実施するための
工夫

【学校との連絡調整について】

最初に実施校の御担当の先生にお電話でご連絡をし、どのような連絡方法、時間帯が先生方にとってご負担が少ないかの確認を行います。ワークショップまでにお伺いしたい事項は、シートにまとめてありますので、そちらをご記入いただき、返信いただく簡単な流れにしています。また随時、学校の先生からのご質問にはお答えできるような体制を作っています。

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

特別な配慮が必要な児童、生徒さんがいるか確認を行い、該当者がいる場合はどのような対応が可能か考えます。例えば、先生方から、演奏途中で抜けてしまう可能性があるとお相談を受けたことがありますが、我々は演奏途中でであっても自由に移動して問題はありませんとお伝えしました。気軽に長唄を知ってもらえる機会になればと考えていますので、先生方のご相談をし、児童、生徒のみなさんにとって何がベストなのかを考えていく姿勢でおります。

【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

現在当会のHP「邦楽普及活動」のページに子供向けのコンテンツ「長唄ってなんだろう?」「よくある質問コーナー」を追加する準備を行っています。また、当会は日本全国4箇所支部があり、会員は日本全国にいますので、継続的な教育に向けてお手伝いすることがあれば是非ご相談いただきたいと思います。当会の「教育をデザインする委員会」が作成した、教員向けのテキストもありますので、ご質問等ありましたらご連絡をお願いいたします。